

2節 アスファルト防水

9.2.4 施工

- (4) アスファルトルーフィング類の張付けは、次による。
- (エ) ルーフドレン、配管、和風便器等との取合いは、次による。
  - (a) 各層を、よくなじませながら入念に施工する。
  - (b) ルーフドレン回りは、最下層に 300mm 以上のストレッチルーフィングを用いて、ドレン のつばに 100mm 程度、残りをスラブ面に張り掛けて増張りする。また、ドレン回りの増張り とパラペットの入隅の増張り とが重なる部分は、一方を省略することができる。
    - ① 密着工法の施工は、次による。
      - 増張りしたストレッチルーフィングの上まで平場のアスファルトルーフィング類を張り重ねる。
    - ② 絶縁工法の施工は、次による。
      - ⑦ 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートを用いる場合
        - ④ 幅 500mm 程度の改質アスファルトルーフィングシートを、先に増張りしたストレッチルーフィングに張り掛ける。改質アスファルトルーフィングシートは、ドレンのつばに100mm程度張り掛け、残りの 400 mm程度はドレンの周囲にアスファルトで張り掛ける。
        - ⑤ ドレンの周囲に張り付けた改質アスファルトルーフィングシートにアスファルトを用いて、部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートを 100mm 以上張り掛ける。
        - ⑥ 2層目以降のアスファルトルーフィング類は、ドレンの周囲に張り付けた改質アスファルトルーフィングシートの上まで張り重ねる。

4節 合成高分子系ルーフィングシート防水

9.4.4 施工

- (5) 増張り及び成形役物は、次による。
- (ウ) 種別 S-F1、SI-F1、S-M1 又は SI-M1 の場合、ルーフトレン、配管等と周囲の防水下地 材との取合いは、ルーフィングシートの張付けに先立ち、次の処理を行う。
  - (a) ルーフドレン回りは、幅 150mm 程度の増張り用シートをドレンと下地面に割り振り、ルーフトレンのつばには増張り用シートを 100 mm程度張り掛け、張り付ける。

13章 屋根及びとい工事

5節 とい

- 13.5.1 一般事項 この節は、雨水を排水するといに適用する。
- 13.5.2 材料 (1) といその他は表 13.5.1 により、材種等は特記による。

表 13.5.1 といその他

材種	規格番号(規格名称)	材質その他
配管用鋼管	JIS G 3452 (配管用炭素鋼鋼管)	白管
排水管継手	JPF DF 001 (排水用ねじ込み式鋳鉄製管継手) (注) 1	溶融亜鉛めっき
硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K 6741 (硬質ポリ塩化ビニル管)	VP(管の種類) 屋内には使用しない。
硬質ポリ塩化ビニル管継手	JIS K 6739(排水用硬質ポリ塩化ビニル管 継手)	—
ルーフトレン	JCW 301 (ルーフトレン) (注) 2	張掛け幅は 100mm 以上
硬質塩化ビニル雨どい	JIS A 5706 (硬質塩化ビニル雨どい)	接着剤は、といの製造所の指定する製品 による。
表面処理鋼板	JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)	屋根用とし、表面及び裏面の塗膜の種類 は、特記による。
	JIS G 3318 (塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯)	屋根用とし、表面及び裏面の塗膜の種類 は、特記による。
	JIS G 3322 (塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)	屋根用とし、表面及び裏面の塗膜の種類 は、特記による。
	JIS K 6744 (ポリ塩化ビニル被覆金属板及 び金属帯)	A種、被覆原板は、SGの両面被覆品とする。
	—	耐酸被覆鋼板は、特記による。
ステンレス 鋼板	JIS G 3320(塗装ステンレス鋼板及び鋼帯) 又は JIS G 4305(冷間圧延ステンレス鋼板 及び鋼帯)	—
とい緊結用 銅線	—	径 1.2mm

(注) 1. JPF DF 001 は、日本金属継手協会規格である。  
2. JCW 301 は、日本鋳鉄ふた・排水器具工業会規格である。